

4 - 1 8 1995 年伊豆半島東方沖群発地震前後における地中電界変動現象
Electric Field Changes Related to the Seismic Swarm off the East Coast of Izu
Peninsula, 1995

防災科学技術研究所

通信総合研究所

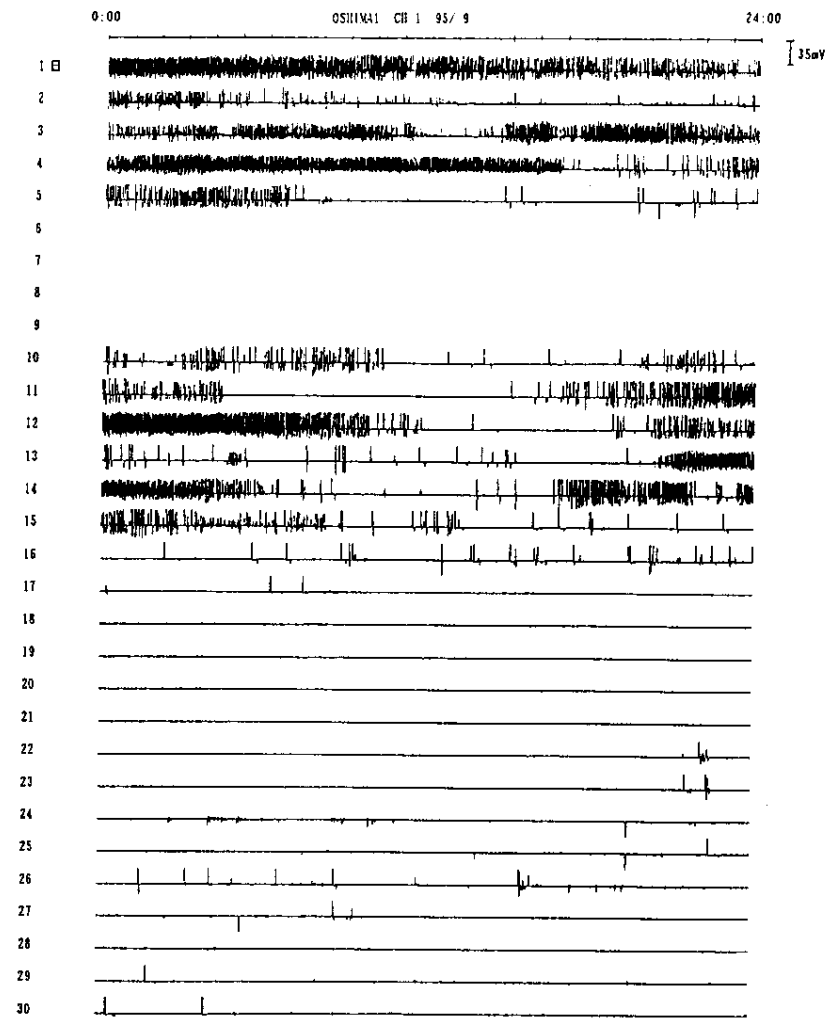
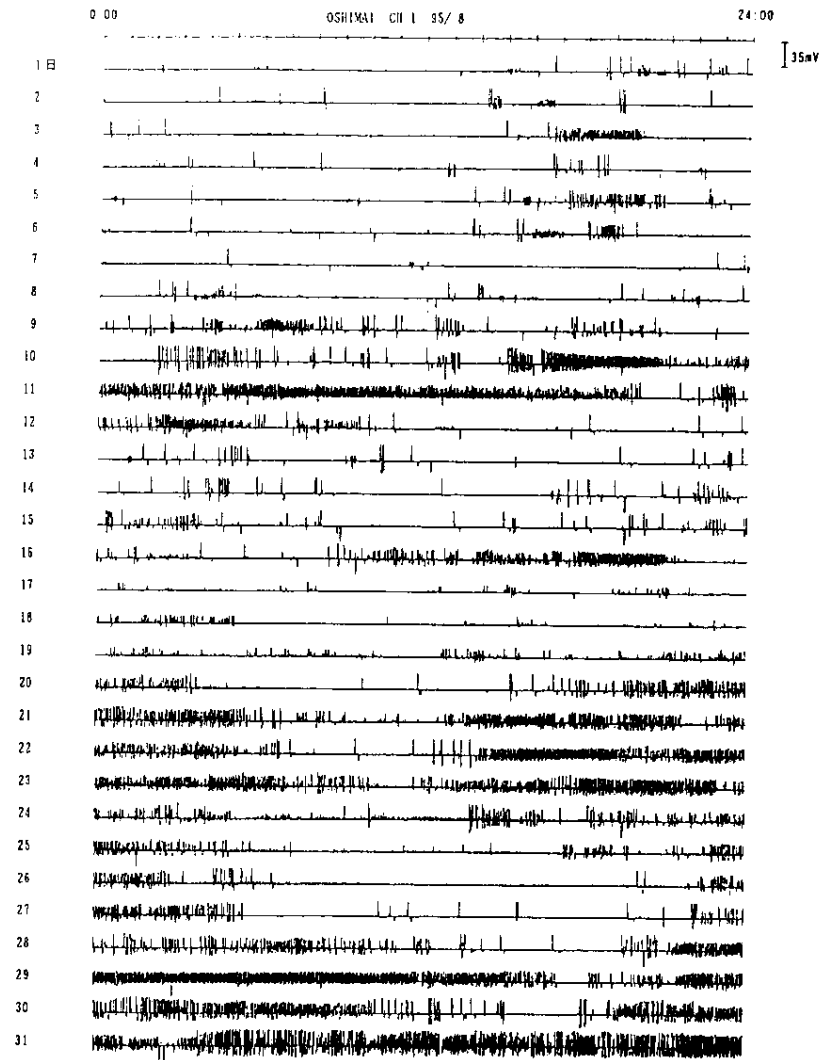
National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

Communications Research Laboratory

防災科学技術研究所では関東・東海地方の7点においてボアホールアンテナを用いた地中電界変動の計測を行っている。このうち、伊豆大島の観測点において伊豆半島東方沖群発地震の発生前に顕著な変動が観測されたので報告する。

伊豆大島第2火山活動観測施設における長さ約300mのケーシングパイプによる地中電界変動観測のうち、ULF(0.01~0.7Hz)の変動は、1995年6月初旬までは極めて静穏な状態であったのが、6月中旬より信号パルス数が増加し、8月上旬に一旦減少したものの、その後再び増加し、8月中旬から9月半ばにかけて観測される信号パルス数は顕著に大きくなった。第1図に1995年8月および9月の観測記録を示す。この地中電界変動現象は1990年10月以来最大のものとなった。今回の地震活動が、伊豆大島の方面から開始または通過したマグマの活動によることが示唆される。

(松本拓己・藤縄幸雄・高橋耕三)



第1図 伊豆半島における地中電界変動 (1995年8月~9月)

Fig. 1 Electric Field Changes in Izu-Oshima (from August to September, 1995)